



天野知恵子先生 略歴

1955年10月 三重県津市に生まれる

学 歴

1978年 3月 名古屋大学文学部史学科（西洋史学専攻）卒業

1980年 3月 名古屋大学大学院文学研究科博士前期課程（史学地理学専攻）修了

1983年 3月 名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程（史学地理学専攻）単位修得退学

職 歴

1983年 4月 日本学術振興会奨励研究員（1984年 3月まで）

1983年 4月 中京大学体育学部非常勤講師（1984年 3月まで）

1984年 4月 日本福祉大学社会福祉学部非常勤講師（1986年 3月まで）

1986年 4月 和歌山大学教育学部講師（1990年 3月まで）

1990年 4月 和歌山大学教育学部助教授（2003年 3月まで）

1996年 3月 在外研究（パリ第7大学）（1996年 8月まで）

2003年 4月 愛知県立大学外国語学部教授

2010年10月 名古屋大学教育学部非常勤講師（2011年 3月まで）

2012年 4月 名古屋大学教育学部非常勤講師（2012年 9月まで）

2017年 4月 名古屋大学教育学部非常勤講師（2017年 9月まで）

2021年 3月 定年により愛知県立大学を退職

天野知恵子先生 研究業績目録

著書

- 『フランス革命』 T. C. W. ブラニング著 (単訳書) 岩波書店 2005
- 『子どもと学校の世紀—18世紀フランスの社会文化史—』 (単著) 岩波書店 2007
- 『子どもたちのフランス近現代史』 (単著) 山川出版社 2013

学術論文

- 「一七九三年パリの革命婦人協会—民衆運動の一側面—」
『史学雑誌』第90編 第6号 pp. 35-57 1981
- 「フランス革命期の民衆運動—その社会的・経済的要求をめぐって—」
『院生論集 (名古屋大学大学院文学研究科)』第11号 pp. 44-56 1982
- 「ことば・革命・民衆—フランス革命下におけるグレゴワールのアンケート調査分析—」
『社会史研究』第6号 pp. 184-206 1985
- 「アンシャン＝レジーム期における『小さな学校』—研究の現状と今後の課題—」
『思想』第741号 pp. 89-106 1986
- 「十八世紀フランスのコレージュ改革とパリ高等法院」
『史林』第72巻 第3号 pp. 90-122 1989
- 「フランス革命下の言語問題と言語政策」
『ふらんす』(白水社)第64巻 第7号 pp. 62-69 1989
- 「寄宿生たち—十八世紀後半のフランスにおけるエリート教育の一側面—」
長谷川博隆編『権力・知・日常—ヨーロッパ史の現場へ—』
(名古屋大学出版会) pp. 121-146 1991
- 「フランス革命期の地方言語問題」
『和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要』第11号 pp. 83-101 1991
- 「国民国家の創設と愛国少年伝説の展開—フランス革命の英雄バラ、ヴィアラ—」
『史学雑誌』第106編 第9号 pp. 73-99 1997
- 「フランス革命の『英雄たち』—1793-1794年の『フランス共和主義者の英雄的・市民的行為録』から—」『和歌山大学教育学部紀要 (人文科学)』第48集
pp. 1-16 1998
- 「革命前夜の子ども・家族・社会—アルノー・ベルカン『子どもの友』の世界—」
服部春彦・谷川稔編『フランス史からの問い』(山川出版社) pp. 126-150 2000
- 「1999年の歴史学界 回顧と展望 近代フランス」
『史学雑誌』第109編 第5号 pp. 334-340 2000

- 「子殺しの物語『マテオ・ファルコネ』をめぐって—19世紀フランス小説に描かれた子ども像の周辺(1)—」『和歌山大学教育学部紀要(人文科学)』第52集 pp. 1-11 2002
- 「フランス革命期の初等教育をめぐって」
『愛知県立大学外国語学部紀要』(地域研究・国際学編)第36号 pp. 75-93 2004
- 「フランス革命と女性」
若尾祐司・栖原彌生・垂水節子編『革命と性文化』(山川出版社) pp. 11-40 2005
- 「18世紀フランスの初等学校教師」
松塚俊三・安原義仁編『国家・共同体・教師の戦略—教師の比較社会史—』(昭和堂) pp. 23-42 2006
- 「第一次世界大戦とフランスの子どもたち」
『愛知県立大学外国語学部紀要』(地域研究・国際学編)第42号 pp. 51-71 2010
- 「第二次世界大戦期のフランスにおける子どもたち」
『愛知県立大学外国語学部紀要』(地域研究・国際学編)第43号 pp. 191-213 2011
- 「19世紀フランス民衆世界の子どもたち」
『愛知県立大学外国語学部紀要』(地域研究・国際学編)第44号 pp. 167-186 2012
- 「第三共和政期フランスの保育学校—レオン・フラピエ『ラ・マテルネル』の分析を中心に—」
『愛知県立大学外国語学部紀要』(地域研究・国際学編)第47号 pp. 83-102 2015
- 「『女性』からみるフランス革命—政治・ジェンダー・家族—」
近藤和彦編『ヨーロッパ史講義』(山川出版社) pp. 126-144 2015
- 「フランス系カナダの歴史にみる女性教師—ガブリエル・ロワ『わが心の子らよ』の紹介を中心に—」
『愛知県立大学大学院国際文化研究科論集』第18号 pp. 261-271 2017
- 「ドイツ占領期のフランス農村における2人の女性教師—回想録と「ノート」の紹介—」
『愛知県立大学外国語学部紀要』(地域研究・国際学編)第51号 pp. 235-247 2019
- 「フランス革命と家族—「婚外子」についての議論をめぐって—」
『愛知県立大学外国語学部紀要』(地域研究・国際学編)第52号 pp. 225-237 2020
- 「パリ、1792年夏—ひとりの女性が見たフランス革命—」
『愛知県立大学外国語学部紀要』(地域研究・国際学編)第53号 pp. 213-226 2021

翻 訳

- 「一七世紀の南インド社会とイエズス会—『フランス版イエズス会士インド書簡集』の翻訳と注解(1)—」
『名古屋大学東洋史研究報告』6 pp. 248-275
(共訳：全頁が重松伸司 高木勇夫との共同訳) 1980
- 「一七世紀の南インド社会とイエズス会—『フランス版イエズス会士インド書簡集』の翻訳と注解(2)—」
『名古屋大学東洋史研究報告』7 pp. 111-128
(共訳：全頁が重松伸司 高木勇夫との共同訳) 1981
- 『フランス革命と教会』ミシェル・ヴォヴェル著 (人文書院)
(共訳) (担当部分) 「第2章・非キリスト教化運動の波」 pp. 53-76, 「第7章・非キリスト教化運動の推進者」 pp. 209-246 1992
- 『女の歴史III 16-18世紀1』ジョルジュ・デュビイ、ミシェル・ペロー監修 (藤原書店)
(共訳) (担当部分) 「第10章・教育の対象としての娘たち」 pp. 158-205 1995
- 『女の歴史IV 19世紀1』ジョルジュ・デュビイ、ミシェル・ペロー監修 (藤原書店)
(共訳) (担当部分) 「第10章・娘たちの教育」 pp. 375-401 1996
- 「フランスにおける女性史の諸傾向」ミシェル・ペロー著
(単独訳) 『女性歴史文化研究所紀要(京都橘女子大学)』第6号 pp. 23-35 1997
- 『女の歴史V 20世紀2』ジョルジュ・デュビイ、ミシェル・ペロー監修 (藤原書店)
(共訳) (担当部分) 「第15章・後見付きの解放」 pp. 691-741 1998
- 『フランス革命と家族ロマンス』リン・ハント著 (平凡社)
(共訳) (担当部分) 「第4章・悪しき母」 pp. 167-227, 「第6章・家族の復権」 pp. 277-346, 「エピローグ」 pp. 347-366 1999
- 『記憶の場—フランス国民意識の文化=社会史1 対立—』ピエール・ノラ編 (岩波書店)
(共訳) (担当部分) 「アンシャン・レジームと大革命」 pp. 128-157, 「サン=マロ・ジュネーヴ線」 pp. 394-434 2002
- 『記憶の場—フランス国民意識の文化=社会史2 統合—』ピエール・ノラ編 (岩波書店)
(共訳) (担当部分) 「三色旗」 pp. 4-27 2003
- 『記憶の場—フランス国民意識の文化=社会史3 模索—』ピエール・ノラ編 (岩波書店)
(共訳) (担当部分) 「街路の命名」 pp. 180-221 2003
- その他 (教科書関連資料・雑誌記事・エッセイなど)**
「台所から政治の場へ—フランス革命と民衆の女たち—」
『週刊朝日百科 世界の歴史』(朝日新聞社) 99号 pp. 618-622 1990
- 高等学校教科書・柴田三千雄他著『世界の歴史(世界史B) 教授資料』
(山川出版社) pp. 414-494 (共著：担当頁を共同執筆) 1994

- 高等学校教科書・柴田三千雄他著『現代の世界史（世界史A）教授資料』（山川出版社）pp. 39-56, pp. 123-156（共著：担当頁を共同執筆） 1994
- 「中学校歴史教科書を考える—『社会史』とジェンダー史の視点から—」
『和歌山大学紀州経済史文化史研究所紀要』第22号 pp. 23-34 2002
- 「近代社会史研究会の思い出に寄せて」
谷川稔ほか編『越境する歴史家たちへ—「近代社会史研究会」（1985-2018）からのオマージュ—』（ミネルヴァ書房）pp. 102-106 2019
- 書評・紹介**
- 遅塚忠躬著『ロベスピエールとドリヴィエ—フランス革命の世界史的位置—』（東京大学出版会 1986年）
『歴史と地理』381号 pp. 41-44 1987
- リン・ハント著・松浦義弘訳『フランス革命の政治文化』（平凡社 1989年）
『史学雑誌』第98編 第7号 pp. 101-102 1989
- 立川孝一著『フランス革命』（中公新書 1989年）および多木浩二著『絵で見るフランス革命』（岩波新書 1989年）
『史学雑誌』第99編 第1号 pp. 129-130 1990
- アラン・コルバン著・杉村和子監訳『娼婦』（藤原書店 1991年）
『週刊読書人』第1884号 1991
- M. Vovelle, *La Révolution contre l'église* (Paris 1988)
『日本18世紀学会年報』第6号 pp. 38-39 1991
- M. M. Compère et D. Julia, *Les collèges français, 16e-18e siècles* (Paris 1984-1988)
『日仏歴史学会会報』8 pp. 5-6 1991
- ロベール・ミュシャンブレッド著・石井洋二郎訳『近代人の誕生—フランス民衆社会と習俗の文明化—』（筑摩書房 1992年）
『史学雑誌』第102編 第7号 pp. 122-123 1993
- ジャン＝ルイ・フランドラン著・森田伸子、小林亜子訳『フランスの家族』（勁草書房 1993年）『日本18世紀学会年報』第9号 pp. 75-76 1994
- 谷川稔著『十字架と三色旗—もうひとつの近代フランス—』（山川出版社 1997年）
『西洋史学』第191号 pp. 79-82 1998
- フランソワ・ルブラン著・藤田苑子訳『アンシアン・レジーム期の結婚生活』（慶應義塾大学出版会 2001年）『日本18世紀学会年報』第17号 pp. 37-38 2002
- ナタリー・Z. デーヴィス著・長谷川まゆ帆他訳『境界を生きる女たち』（平凡社 2001年）『社会経済史学』第69巻 第3号 pp. 129-131 2003
- 香川せつ子・河村貞枝編『女性と高等教育—機会拡張と社会的相克—』（昭和堂 2008年）
『女性史学』第19号 pp. 164-167 2009

- 前田更子『私立学校からみる近代フランス—19世紀リヨンのエリート教育—』
(昭和堂 2009年)
『史学雑誌』第119編 第9号 pp. 98–105 2010
- 小山美沙子『フランスで出版された女性のための知的啓蒙書(1650–1800年)に関する
—研究—その特徴及び時代背景から19世紀への継承まで—』(溪水社 2010年)
『西洋史学』第242号 pp. 74–76 2011
- 橋本伸也・沢山美果子編『保護と遺棄の子ども史』(昭和堂 2014年)
『史学雑誌』第125編 第3号 pp. 89–96 2016
- 岡部造史『フランス第三共和政期の子どもと社会—統治権力としての児童保護—』
(昭和堂 2017年)『社会経済史学』第84巻 第3号 pp. 111–113 2018

学会活動・社会活動

史学会

日仏歴史学会

関西フランス史研究会

鯉城学園名古屋市高年大学講師 (2015–2019年)

日本学術振興会特別研究員審査委員 (2016–2017年)

愛知県男女共同参画審議会委員 (2016–2021年)

(同副会長2018–2021年、2020年度の審議部会長)